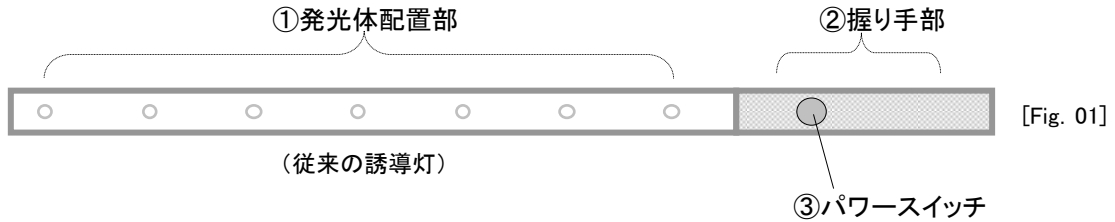


「空間ディスプレイ装置」の応用例

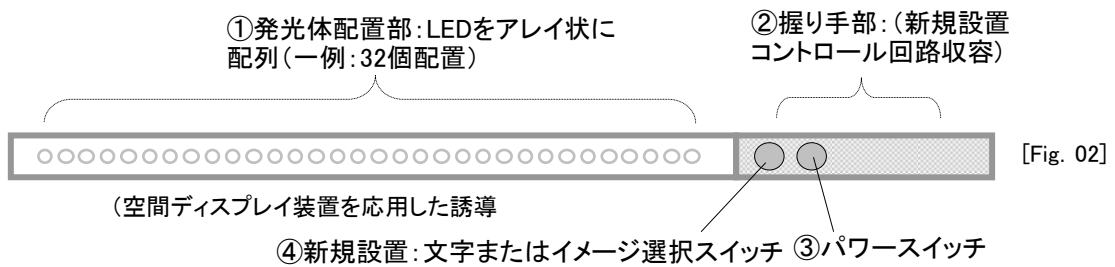
LETTER ON SPACE

特許番号: 特許第4250667号 登録日: 平成21年1月23日

従来の交通誘導棒(LED誘導灯)は図で表現するとおおよそ[Fig. 01]の形状です。



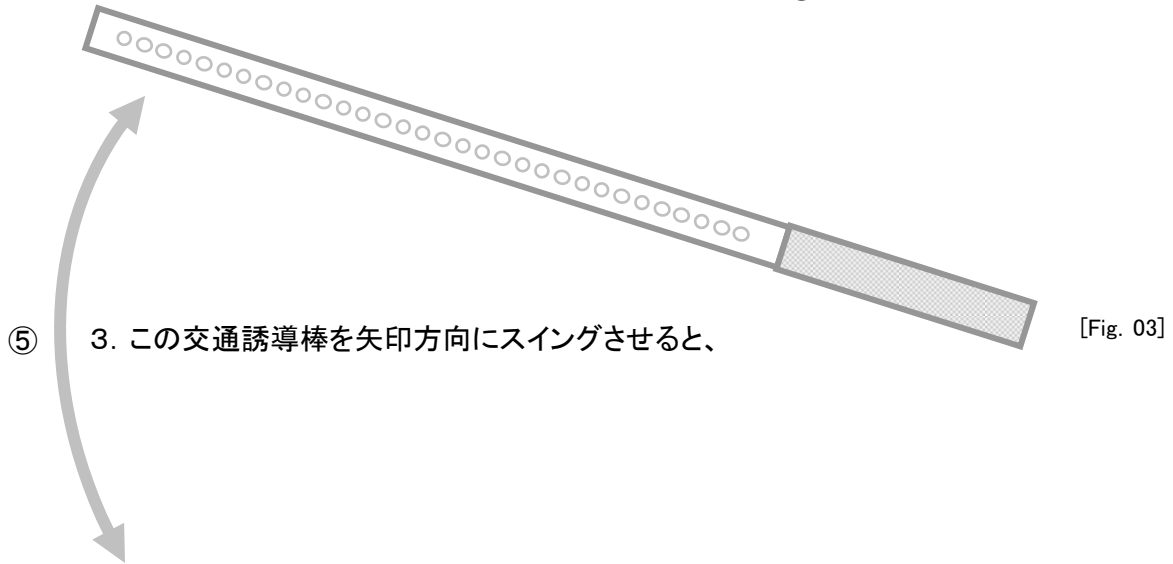
「空間ディスプレイ装置」をこの交通誘導棒(LED誘導灯)に応用すると、外形の形状はほぼそのままに保ちつつ、①の部分にLEDをアレイ状に配列し、②の握り手の部分にコントロール回路を収容すれば、空間ディスプレイ装置の機能を有した[Fig. 02]のような交通誘導棒(LED誘導灯)を製作できます。



上記空間ディスプレイ装置を応用した誘導灯は、既にプロトタイプが完成しております。

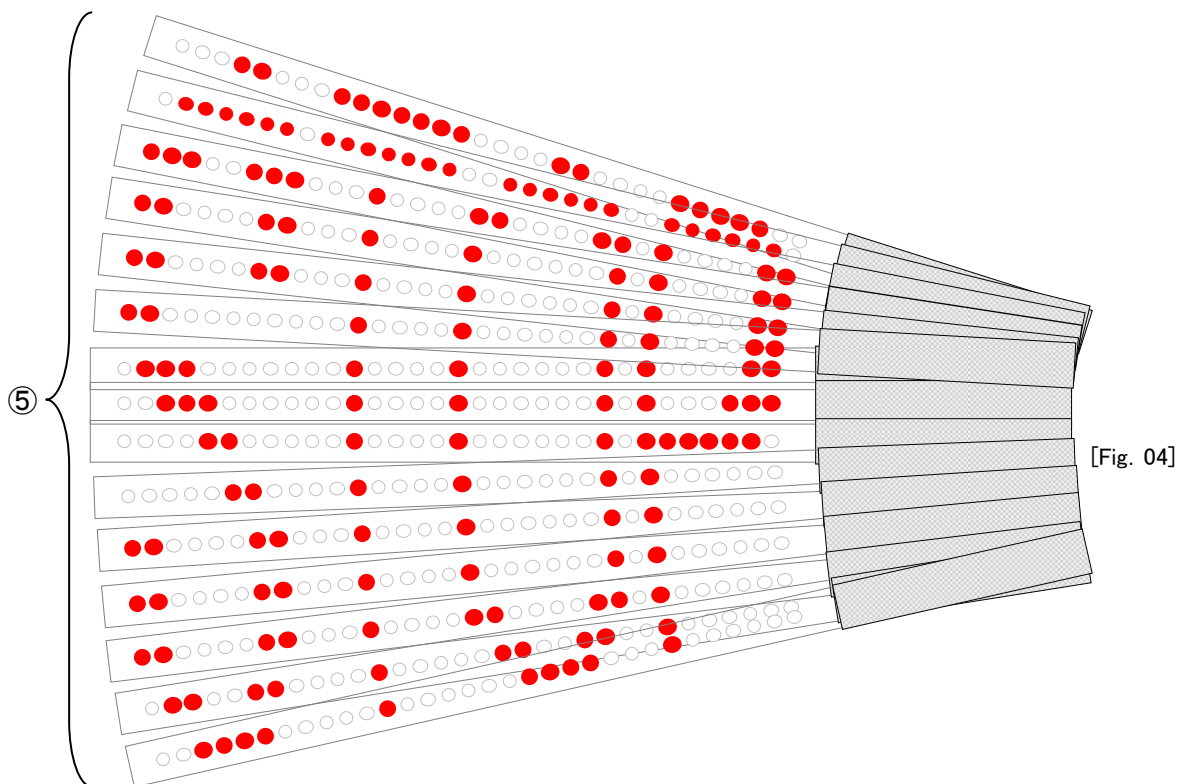
使い方イメージ

1. パワースイッチ③を入れ
2. 空間に描こうとする文字またはイメージを選択スイッチ④で選択し



上記交通誘導棒(誘導灯)をスイングさせることと、②部に收容されたコントロール回路により①部のLEDの発光・消光をアレイ単位でかつ時系列に制御することとの組み合わせによる残像効果により、LEDアレイが移動したときに作る仮想空間上⑤ [Fig. 03]に、④のスイッチで選択した文字またはイメージを描くことができます。

文字やイメージなど予め登録しておけば、なんでも描くことができます。一例として、④のスイッチで「STOP」の文字を選択して上記棒をスイングさせれば、[Fig. 04]のように「STOP」の文字を空間上⑤に描くことができます。



動きを動画で見ることが出来ます。

http://www.moroyamadenshi.com/pv_go-stop.wmv

効果

従来の誘導灯を使用して「止まれ」、「行け」を指示しようとする、その指示がそれを見る人に正確に伝わるかどうかは、誘導灯を使用する人のパフォーマンスにかなりの程度依存してしまいます。

しかし、「空間ディスプレイ装置」を応用した誘導灯であれば、誘導灯そのものが意志伝達の手段を持っているので、これを見る人に、この誘導灯を使用する人のパフォーマンスに抛らず、確実に意志を伝えることが出来ます。

結びに

今回提案する「空間ディスプレイ装置」を応用した製品を提案するに当たって、この提案をすることによって従来の誘導灯の価値を否定するものでも、従来の誘導灯を使用する人のパフォーマンスの価値を否定するものでもありません。

毛呂山電子研究所
埼玉県入間郡毛呂山町岩井西1-11-5-701
<http://www.moroyamadenshi.com/>
info@moroyamadenshi.com

[HPIに戻る](#)